

第11回 ナーシング・キャリアカフェ in 沖縄 報告書(案)

I. 日 時：2014年1月25日(土) 14:00～16:00(特別講演は、13:00～)

II. 場 所：沖縄サテライト

III. 主 催：名桜大学

IV. テーマ：特別講演「特定看護師の現状と教育課程の実際」
 ナーシング・キャリアカフェ “広がる私達の進路～特定看護師とは”

V. プログラム：

時間	内容
12:45～ 13:00	受付
13:00～ 13:45	テーマ：「特定看護師の現状と教育課程の実際」 目 的： 特定看護師とは何か、仕事とはどのようなものか、特定看護師になるためにはどうすればよいのか、講演を聞くことにより、特定看護師の知識を深めることができる 特別講演者：中村 英樹 氏 (本学科卒業2期生 現 東京医療保健大学院看護学研究科在籍 M2)
14:00～ 16:00	ナーシング・キャリアカフェ テーマ：“広がる私たちの進路～特定看護師とは” ゲスト：中村 英樹 氏 ・参加学生・卒業生の自己紹介 ・特定看護師について意見交換など
16:00～ 16:10	アンケート

VI. キャリアカフェ参加者：14名(特別講演者1名：総合計15名)

(内訳) 学生7名(名桜大学7名) (学年 3年：7名)

卒業生1名(名桜大学卒)、特別講演者 1名

教員、係員6名 福岡県立看護大学 1名、沖縄県立看護大学1名(大城さん)、名桜大学4名
 教員3名(+仲栄真))

VII. 概要：

学生による運営、進行のもと特別講演者に本学2期卒業生で現在、東京医療保健大学大学院看護学研究科で学び今年の卒業後は、国立病院機構東京医療センターで認定看護師として臨床研修の勤務をすることが内定している中村 英樹氏を招いて、特定看護師とは何か、講演を聞くことにより、特定看護師の知識を深めることを目的にテーマ「特定看護師の現状と教育課程の実際」の特別講演会が行われた。



中村氏の自己紹介とキャリア形成の話題から始まり、看護師としてのキャリア選択やナース・プラクティショナー (Nurse Practitioner, NP) とは何か、特定看護師の現状、ナース・プラクティショナーや特定看護師の話題では必ず議題となる特定行為について、特定看護師の可能性がキャリアになりうるのか等を学生へわかりやすくお話戴き、質疑応答を行った。

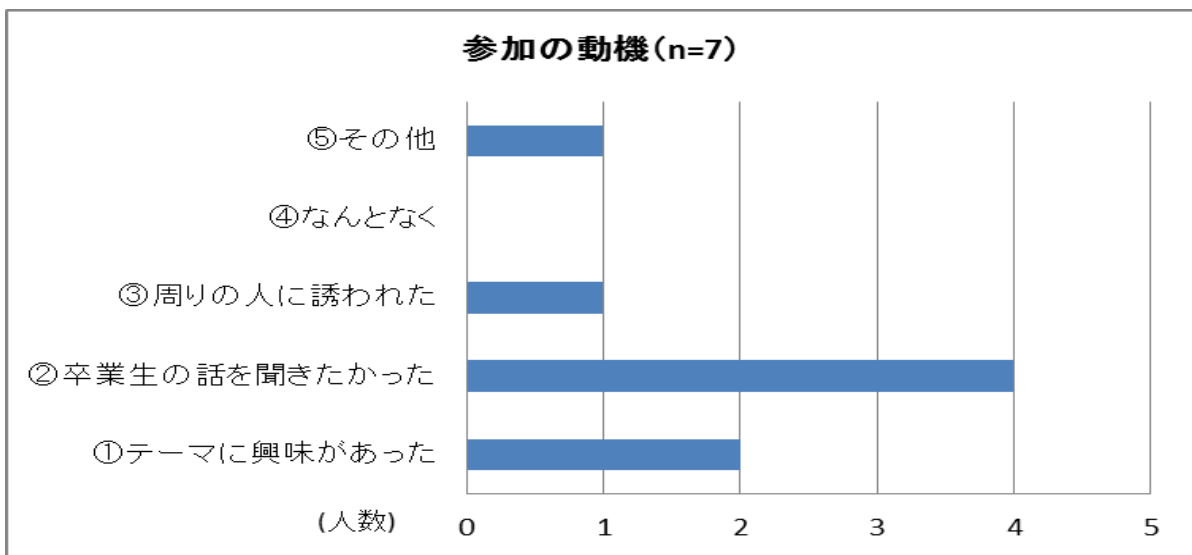
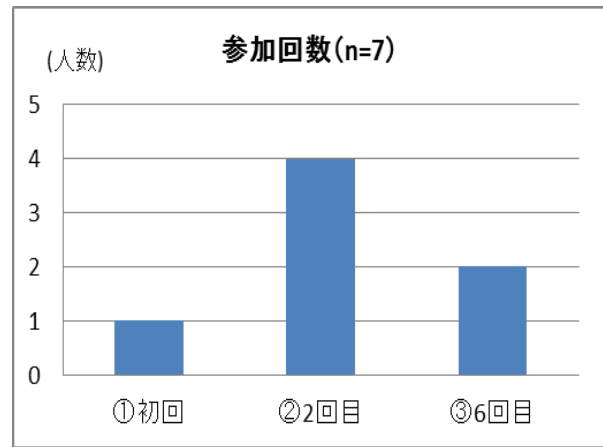
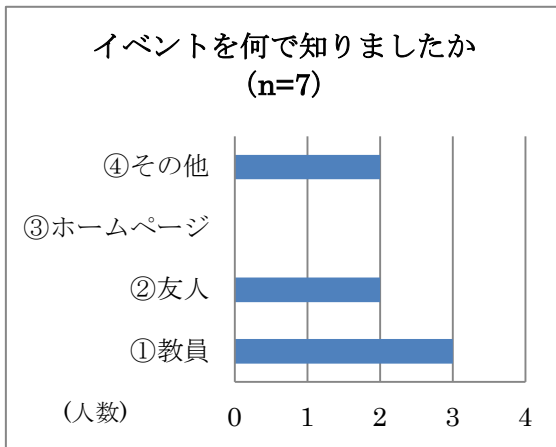


講演会終了後、休憩の間に講演座席から移動、座席変更し、名桜大学卒業生の看護師として働く先輩、教職員と講演者の中村氏が加わり、ナーシング・キャリアカフェが行われた。

はじめに在学生司会者の進行のもとアイスブレイキングゲームを行ったり、「広がる私たちの進路～特定看護師とは」をテーマに悩んだこと、乗り越えた方法、看護師になってよかったと実感した体験や保健師との職域の違いなどについて、日頃思っていることなど、積極的な意見交換の場となった。最後に記念撮影と後片付けを行い終了となった。



VIII. アンケート結果：学生アンケート7名、卒業生1名回答



交流会の満足度について、あてはまるものひとつ選んで○をつけてください。

- ・①満足した。へ全回答者から○となった。

自由記載

- ・看護の職の見方、考え方が広がってよかった。
- ・特定看護師について知ることができ、自分のこれからの進路についてよく考えていこうと思った。
- ・NPの具体的話がきけてよかったです。
- ・寒かった。
- ・今日は参加できて本当によかった。特定NSについて知る機会となった。

今後実施してほしい企画について

- ・ JICA 職員 (NS) の話
- ・ 助産師の話を聞きたいです。

卒業生アンケート結果 (本学卒業三期生 1 名)

- ・ 勤務地：北部 現在の職業：看護師
- ・ 参加の動機：テーマに興味があった。
- ・ ナーシング・キャリアカフェ沖縄サテライトでの交流会はいかがでしたか。：満足した。

IX. 所感：

学生主体のナーシング・キャリアカフェ企画運営の 3 回目となり、会場準備、運営、後片付け等をスムーズに積極的に行い、アンケート結果にもでているように参加についての満足度が高かった。

また、今回は、本学卒業生の特別講演ということで自身の経験をわかりやすく語ってもらい、在学学生も真剣に聴き入っていた。ナーシング・キャリアカフェでは、アイスブレイキングゲームを取入れ、場づくりに工夫がなされていた。卒業生から、現在の仕事の悩みなどについて話されたり、そのことについて意見が出されたりと卒業生にとっても学び、振返りの機会にもなったようだった。

X. 今後の課題

今回は、本学学生のみでの参加となり、他大学生との交流機会とはならなかった。参加者の増加と他大学学生交流の機会提供を行う仕組みづくりが必要である。